



岡 部 悟 朗 先 生

献呈のことは

岡部悟朗先生は、昭和43年3月に広島大学政経学部を卒業後、九州大学大学院法学研究科修士課程、同博士課程を経て、同大学法学部助手を務められた後、昭和49年7月に講師として鹿児島大学法文学部に赴任されました。その後、昭和53年10月に助教授、昭和63年4月に教授に昇任され、平成22年3月に35年にわたる法文学部での教員生活を終えられて退職されました。

この間、先生は、鹿児島大学法文学部では政治学、政治学特殊講義等の授業科目や共通教育を担当されたほか、大学院法学研究科、人文社会科学研究科、法科大学院において政治学を担当され、学生の教育および研究指導に尽力されました。

学内行政の面では、平成5年6月から平成7年3月まで、さらに平成7年4月から平成9年3月まで法文学部法学科長、平成10年4月から平成11年3月まで大学院法学研究科長、平成10年4月から平成12年3月まで人文社会科学研究科法学専攻長、平成11年4月から平成12年3月まで、さらに平成19年6月から平成21年3月まで評議員、また、平成19年6月から平成21年3月までは評議員と兼務で副学部長の任を務められるなど、要職を歴任され、多大なる貢献を果たされました。

先生の研究業績は、大別すれば、初期のカール・R・ポパーの研究、中期のトマス・ホップズ研究、後期のA・ヴィンセントの研究の三つに区分することができます。まず初期の研究を戦後イギリス政治学会でも最も影響力のあるカール・R・ポパーの研究から始められ、その後、本格的にトマス・ホップズ研究に取り組み、最後に研究生活の締めくくりとして規範的国家論の代表的研究者であるA・ヴィンセントに注目し、絶対主義的、倫理的、階級的、多元主義的諸国家論を扱い、思想家、学者、政治家の主張・理論を再構成したA・ヴィンセントの大著『国家の諸理論』を完訳されています。

学界においては、昭和43年6月から日本政治学会会員として、また、昭和45年4月から九州法学会会員として活躍されました。

大学を取り巻く今日の厳しい状況のなかで、本学の充実と発展のために注いでこられた先生の並々ならぬ情熱を、私たちは敬意とともに受け止め、心の糧として前進していきたいと思います。

先生の多年にわたるご尽力、ご貢献に深く感謝申し上げます、ますますのご健勝を祈念し、本号をご退職記念号として献呈いたします。

平成23年3月

鹿児島大学法文学部法政策学科長

壹岐道隆